様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 ２１ 日現在

機関番号：３４１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７００７８

研究課題名（和文）明治維新期の神仏分離政策の波及と宗教都市伊勢の神仏分離

研究課題名（英文）the Extension of the policy that is the separation of Shinto and Buddhist deities at the beginning of the Meiji Restoration and that of Ise, the sacred city

研究代表者
河野　訓（Kawano, Satoshi）

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：２０３２９９０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：近世から近代にかけての伊勢（宇治と山田）に関する文献や絵図等を精査し、神社・神祠・寺院・仏堂などの所在や変化を整理し、大きく変容した明治維新期の伊勢の宗教状況を明らかにした。また、明治維新時の各地における神仏分離の断行の実情を確認するために、社寺・霊山等に関する現地調査を行い、個別の特殊な事情や行われた時期や規模による相違点などを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research clarified the greatly transformed situations of religions in Ise city at the beginning of the Meiji Restoration, through close inspection of the documents and old maps related to Ise city (i.e. Uji and Yamada) from early-modern times to modern times. Furthermore, to confirm the actual situations of resolute enforcement that is called “Shinbutsu-bunri”: the separation of Shinto and Buddhist deities, I did the field surveys of shrines, temples and sacred mountains, and clarified the individually special circumstances and the differences due to times and scales.

研究分野：宗教学

キーワード：神仏分離　廃仏毀釈　宗教都市　伊勢　神仏習合

１．研究開始当初の背景

本研究計画は申請者が研究分担者として参加した基盤研究（C）(一般)「宗教都市における神仏分離の実態的研究―伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に―」(平成 19 年度～21 年度。代表：櫻井治男皇学館大学教授。以下、櫻井科研と略す)及び申請者が研究代表として進めてきた基盤研究（C）(一般)「宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究」（平成 22 年度～24 年度。以下、河野科研と略す）の研究方針と研究成果を引き継いで進めた。

近年、神仏分離研究について再検討が行われ(阪本是丸「神仏分離研究の課題と展望」等。『神社本庁教学研究所紀要』第 10 号、2005 年 3 月、『近世・近代神道論考』（2007 年、弘文堂)所収)、それとともに神仏習合・分離研究の基本となる諸史・資料の発掘とそれを用いた地方の実態的な分析研究の必要性が一層認識されてきた(村田安穂『神仏分離の地方的展開』平成 11 年、吉川弘文館)。このような中、櫻井科研以来、神仏分離を単に神道側や仏教側の得失的な観点から論じる傾向（例えば「法難」的史観）を脱却し、三重県庁や三重県神社庁、伊勢市の所蔵する史・資料の発掘に努め、デジタル資料化してきた。この成果の一部は冊子報告書『宗教都市における神仏分離の実態的研究―伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に―』に明らかにされている。

櫻井科研により研究上の共有財産として提供された史・資料を基礎資料としてその課題を明らかにしようとしたのが河野科研である。残された課題は、神宮を在地にあって支える宇治・山田という都市空間における神仏関係、とりわけ明治初年の神仏分離で廃寺になった夥しい数の寺院の存在意義を問う研究や山田・宇治における人々の生活との関係、神仏分離に伴う宗教の構造変化の様相などであった。河野科研では櫻井科研のデジタル資料化で洩れた史・資料類をできる限り収集し、データ化した。また、寺院情報についてはこれまでに宇治･山田に存在した 550 寺院についてその宗派、本末関係、所在、開基年代、廃寺時期についてデータ化した。これをもとに寛文 10（1670）年に発生した山田における大火による多数の寺院の焼失、寺院の整理、新たな寺町の形成の様子、更に明治維新の宇治・山田（現伊勢市）における神仏分離前後の存置寺院並び廃寺などの変動状況が目に見える画像のかたちで提示された。

２．研究の目的

櫻井科研と河野科研の研究で浮かび上がった課題の一つに、仏教のみからでは伊勢神宮を中心とした宗教都市伊勢の宗教の実態を明らかにするには限界があるということがある。さらにまた、神仏分離が進行する中で、浄土宗寺院の粘り強い反発はあったものの、進んで還俗する僧侶が多数現れ、全国の神仏分離とは異なる様相が見られたことも解明の必要がある。

本研究計画では、これまでの仏教寺院に関する史･資料の収集･データ化に加え、神社、仏堂、祠堂、神祠などに関する史・資料を収集・整理してデジタルデータ化し、仏教寺院の存廃だけでは語り尽くせない伊勢の宗教景観の実態を鮮明にするとともに、伊勢神宮の神領民としての意識が強い宇治・山田の住人の特殊な宗教意識及び神観念などの思想面の研究に踏み込もうとするものである。

また、明治維新の諸々の神仏分離令の嚆矢は 1868 年（慶応 4 年）3 月 17 日の「諸国神社の別当・社僧復飾の令」(神祇事務局第 165)であり、続いて同 28 日には菩薩等仏教語を神号に用いている神社に由緒を提出させ、仏像を神体とすることを禁じた（太政官第 196)。さらにまた、日吉大社における廃仏毀釈に対応した 4 月 10 日の「神仏分離実施を慎重にすべき令」などに見られるように当時、政府のあった京都やその周辺及び西日本では神仏分離政策の具体化は早かった。先の櫻井科研及び河野科研で研究してきた伊勢の神仏分離もこの時期のものである。しかし、ひるがえって考えてみると、この時期はいわゆる戊辰戦争の只中である。4 月 11 日に江戸開城（江戸城明け渡し)、5 月 15 日には上野での彰義隊の壊滅など、新政府の力が漸く関東に及ぼうとする頃である。全国的には北越戦争（閏 4 月～8 月)、会津戦争（8 月～9 月）など混乱が続く中で、たて続けに出された諸々の神仏分離令がどの程度有効であったのであろうか。本研究計画では神仏分離政策の日本全国への浸透状況も明らかにしたい。

その後、新政府の支配下に置かれた諸藩にも神仏分離政策が及び、実施された。明治 2 年以降、厳しく実施されたのは鹿児島藩(明治 2 年 3 月～)、松本藩(明治 2 年 7 月～)、美濃苗木藩(明治 2 年秋～)、富山藩(明治 3 年閏 10 月～)､土佐藩(明治 4 年～)などである。特に美濃苗木藩や富山藩では厳しかったが、これらは上からの改革であり、一部の仏教僧侶がこぞって還俗し、寺院が消えて行った伊勢における神仏分離とは異なる性格のものである。本研究計画では明治元年から 2 年に推し進められた伊勢の神仏分離と明治 2 年以降の諸藩の神仏分離の違いを歴史的事実と宗教意識の面から明らかにしたい。

以上、この研究では、櫻井科研と河野科研による研究を通じて新たに見えてきた課題と不足を補いつつ、明治維新の神仏分離による宗教都市伊勢（宇治･山田）の景観の変化、神領民という意識の強い伊勢の庶民の宗教意識を明らかにし、諸藩で行われた神仏分離と比較することによって日本近代史における伊勢の神仏分離の意義を明らかにしようした。また、この研究にあたっては、中国や朝鮮半島など東アジア各地域における仏教と固有の宗教の交渉・摩擦を並行して研究す

ることによって、巨視的な観点から伊勢の神仏分離及び廃仏の諸事象を明らかにしようとした。

３．研究の方法

(1)平成 25 年度

①関係資料の調査・収集

三重県庁、伊勢市、伊勢市内の各町の公民館、三重県神社庁に所蔵されている神仏分離前後の文書から、神社、仏堂、祠堂、神祠関連情報の内容調査と収集及びデジタル画像化、伊勢市内の個人蔵の宇治・山田の古地図のデジタル資料化、三重県庁所蔵文書のうち復正(還俗)申請に関する史料等の収集・整理、明治維新の神仏分離に関する都府県庁や公文書館に所蔵される史・資料の調査、収集、整理及びデジタル化、神仏分離後に寺院から移築された建造物や流出した文書・仏具・什物等の調査を行った。

②収集資料の整理と解読

収集資料のうち重要資料の解読・翻刻作業と内容整理を進めた。

③研究発表・情報の交換

研究の成果を国際シンポジウム等で発表、また研究を進める上で必要な情報を得るために専門的知識を有する研究者及び伊勢市内の郷土史家との情報交換を行った。

(2)平成 26 年度

①関係資料の調査・収集

25 年度に引き続き、神社、仏堂、祠堂、神祠関連情報の収集とデジタル画像化、各宗派本山及び本寺と明治政府や諸藩との間で交わされた各種文書、往復書簡の内容調査と収集、デジタル化、明治維新の神仏分離に関する都府県庁や公文書館に所蔵される史・資料の調査、収集、整理及びデジタル化を行った。

②収集資料の整理と解読

地図情報のシステム化。デジタル画像化した紙地図に寺社等の情報のマッピングを行い、25 年度に引続き、収集資料のなかより資料の重要度に応じて解読作業を進め、分析し、従来の研究成果（櫻井科研「宗教都市における神仏分離の実態的研究―伊勢神宮の門前町「宇治・山田」を中心に―」及び河野科研「宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究」）との照合、比較研究を進めた。

③研究発表・情報の交換

研究の成果を月例文化講座等で発表し、25 年度に引き続き研究者及び伊勢市内の郷土史家との情報交換を行った。

(3)平成 27 年度

①成果の公表

研究成果の公開の一環として、新収集資料の目録化及び寺院からの流出物、関係資料の翻刻を中心とした報告書(含ＣＤ版)を作成し、河野科研「宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究」に新たな研究成果を加え、明治維新前後の宇治・山田の景観を画像により復元した。

②研究発表・情報の交換

26 年度に引き続き専門的な知識を有する研究者及び伊勢市内の郷土史家との情報交換を行った。

４．研究成果

(1)明治維新期の伊勢の宗教状況の調査について

伊勢市（宇治・山田）の祠堂や神祠の基礎データとして『小祠拾』所載の祠についてデータ化し、地区別及び種類別（山神、天神、稲荷など）に整理し、所在確認のための現地調査を随時行った。それを補うために、三重県庁所蔵「明治元年　寺院建物絵図並田畑石高帳」、神宮文庫蔵「寺院名録」（平成 21 年度に翻刻）及び東京国立博物館所蔵『伊勢路見取絵図』（平成 23 年度にデジタル撮影済）に見える神祠と仏堂を整理し、データ化して 4 史料を突合させ、より正確なデータとした。また、明治 20 年前後に作成された三重県立総合博物館所蔵「度会郡宇治山田市の各町の図」を整理･分析し、寺院境内とその周辺絵図のデータ化を行った。これらをもとに地図上に神祠・仏堂の位置を明らかにし、所在地に関する情報及び寺院境内図をリンクさせ、その一部を河野科研（平成 22～24 年度）の成果とあわせて CD 版報告に収載した。

(2)明治維新時の諸藩における神仏分離の断行の実情を確認するための現地調査について

諸文献に記される明治維新時の諸藩における神仏分離の断行についてその実情を確認するため、神仏習合と神仏分離が顕著に見られた以下の各地の諸社寺や山岳及びその麓の集落、登拝路における神仏習合と神仏分離後の実態について調査した。現地調査の際に収集した資史料などをもとに、各地の社寺及び山岳の神仏習合と神仏分離に関する報告をほぼ毎月、作成した。現地調査した神社は伏見稲荷大社・春日大社・都久夫須麻神社・出雲大社・金刀比羅宮・日前神宮・国懸神宮・伊太祁曽神社・地主神社・宇佐神宮・熱田神宮・白山中居神社・白山長瀧神社・堀越神社（天王寺）・今宮戎神社・大鳥神社・往馬神社・上野東照宮・地主神社・宇佐神宮・宗像大社・太宰府天満宮・熊野速玉大社など、また、寺院は東寺・仁和寺・西大寺・宝厳寺・醍醐寺・崇福寺（長崎市）・興福寺（同）・切幡寺（阿波市）・善通寺・粉河寺・紀伊三井寺・園城寺・清水寺・善光寺・興福寺（奈良県）・題経寺・大師堂（郡上市石徹白）・長滝寺・愛染院（天王寺）・四天王寺・富貴寺・両子寺・当麻寺などである。他に生駒山麓・白山麓（加賀馬場・越前馬場・美濃馬場）・富士山麓（富士吉田市・富士宮市）・立山山麓・戸隠山麓・出羽三山・国東半島・十津川・能勢妙見などの山岳・山麓・地域を調査し、天理大学図書館・苗木遠山史料館（中津川市）・富士宮市郷土資料館など、いくつかの社寺・史料館では、貴重な史料を拝見させて

いただいた。
(3)報告書の作成について
　これらの調査や文献史料にもとづき、以下の①から⑤の分類に従って神仏分離の具体例を整理し、報告書に収載した。①社寺の分離・併存として、厳島神社・西大寺・竹生島の宝厳寺と都久夫須麻神社・清水寺と地主神社・善光寺・春日大社と興福寺・長谷寺・信貴山・鞍馬山・法隆寺・日光の各社寺。②寺院存続・社併存として、醍醐寺・仁和寺・三井寺・神護寺・当麻寺・室生寺・能勢妙見の各社寺。③神宮寺廃寺として、伏見稲荷大社・熱田神宮・金刀比羅宮・大鳥神社の各社。④仏教排除として、白山・出雲大社・富士山・立山・戸隠・出羽三山・貴船神社。⑤その他として、生駒山・四天王寺と今宮戎神社・寛永寺・籠神社と成相寺・伊勢神宮。
なお、以上のように神社・寺院や霊山とされる山岳における個々の神仏分離の実態に関する整理は行ったが、明治維新期の神仏分離政策の日本各地への波及については、総合するまでには至っていない。早急にまとめるべき今後の課題としたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計３件）

河野訓、「日本における神仏習合　－僧のもたらした神々－」、『皇學館大学研究開発推進センター紀要』、査読無、第１号、2015 年、pp.18-22
河野訓、「20 世紀中後半における中国仏教寺院の変貌の研究②」、『2013 三菱財団研究・事業報告書』、査読無、44 巻、2014 年、p.91（報告書 CD-ROM では 9400 文字余で詳説）
河野訓、「20 世紀中後半における中国仏教寺院の変貌の研究」、『2012 三菱財団研究・事業報告書』、査読無、43 巻、2013 年、p.126（報告書 CD-ROM では 5100 文字余で詳説）

〔学会発表〕（計５件）

河野訓、伊勢の聖なる空間Ⅰ「神仏習合と伊勢」、「伊勢」と日本スタディプログラム、平成 27 年 2 月 27 日、皇學館大学（三重県伊勢市）
河野訓、「南北朝時代の三教の対立と融和」、支遁与魏晋南北朝国際学術研討会議、平成 26 年 10 月 12 日、紹興市（中国）
河野訓、「三名山の神様・仏様」、皇學館大学月例文化講座（招待講演）、平成 26 年 6 月 14 日、皇學館大学（三重県伊勢市）
河野訓、「日本における神仏習合　－僧のもたらした神々－」、皇學館大学神道研究所公開学術シンポジウム「東アジア及び東南アジアにおける神仏習合・神仏関係」、平成 25 年 12 月 14 日、皇學館大学神道研究所（三重県伊勢市）
河野訓、「伊勢における神仏分離」、国際シンポジウム「転換期の伊勢」、平成 25 年 7 月 27 日、国際日本文化研究センター（京都府京都市）

〔図書〕（計６件）

河野訓他（共著）、思文閣出版、『変容する聖地　伊勢』、2016 年、pp.187-206　総 321 頁
河野訓、自費出版（科研報告書）、『明治維新期の神仏分離政策の波及と宗教都市伊勢の神仏分離』、2016 年、403 ページ
河野訓、皇學館大学出版部、『三名山の神様・仏様』、2016 年、72 ページ
河野訓（共編）、皇學館大学出版部、『堀至徳日記』、2016 年、総ページ数 606 ページ（執筆 pp.546-549）
河野訓他（共著）、ミネルヴァ書房、『よくわかる宗教学』、2015 年、pp.88-89, 92-95　総 216 頁
河野訓他（共著）、朝倉書店、『仏教の事典』、2014 年、pp.251-259　552 頁

６．研究組織
(1)研究代表者

河野　訓（KAWANO, Satoshi）
皇學館大学・文学部・教授
研究者番号：20329907